



## 春がやって来た

---

春が来ましたよ

やっほ！ヤッピー！

日曜日のお天気の良い午後です。

家族全員で裏庭に出ました。

丸太に座ってコーヒーを楽しみました。

よく地面を見ていると

なんと！

ちゃんと春が我が家にも来ていますよ。

しっかりとした葉っぱをつけた。

チューリップさん、水仙さんが手をふっています。

やあ～こんにちはと声をかけました。

今年の冬はどうだったの？

と尋ねると

過ごしやすかったけど、何だか物足りなかったよ。

どうして？

冬は寒い方が私達は力が出て来るんだよ。

だって、

辛い分、

耐えた分、

頑張った分、

暖かい良い春が必ずやって来るからさ。

え～！そうなんだ！

じゃ～今、仕事を探している人や

大学や色んな試験に何度も不合格している人

病気で苦しんでいる人  
家庭問題を抱えている人  
商売が上手くいかない人  
恋愛が上手くいってない人  
みんな、いつかは春が来るのね。

もがいている事は力を貯えているのね。

この辛い時に悟った事が  
後の人生に役に立つのね。

だから、いつも春になると  
草木の芽や蒼を見ると  
何だか元気になるね。

それは草木や花が  
寒い冬を耐えて頑張ってきたからだね。

草木や花さん！  
ありがとう！  
負けずに頑張るわね。

右手さん、左手さん！

---

ねえ～ね、右手さん！

あなた幸せなの？

はい、私はとても幸せよ。

そう言うあなたは誰なの？

私は左手ですよ。

あ～左手さん！ こんにちは！

お元気ですか？

はい！ 元気ですよ。

あ～良かったわ。

私達って幸せね。

左手さんと右手さんは手と手を取り合い喜んだ。

ある日、右手さんが泣いています。

どうしたの？右手さん！

痛そうね。

ええ、重たい物をもったから、痛いんだ。。

あ～ かわいそうに

はれっちゃたのね。

ごめんね。

私が手伝えれば良かった。

と 左手さんが右手さんをさすりながら

よし、よし 痛いの飛んで行けと言った。

すると、痛みが消えていった。

ありがとう、左手さん！

いつも、貴女は優しいな。

いや、いや

右手さん！

彼方は偉いわよ。  
いつも 働いているでしょう。  
字を書いたり、  
コップをもったり、  
包丁で野菜やお肉を切ったり、  
掃除をしたり、洗濯をしたり  
食べる時は、はしを持ったりと  
働き続きよ。

そうでもないよ。  
左手さん！  
あなたは控えめにみえるけど、  
貴女がいつも  
そっと、お椀やお皿をもってるだろう。  
とても助かるよ。

それにね、  
お習字の時は紙を押さえてくれるから  
上手く書けるよ。  
だから、とても必要な存在ですよ。

あら？ そうなの？  
私達って気が合うのね。  
と手と手を取り合った。

その会話を聴いていた手の持ち主が頷いていました。  
なるほどね。  
お互い助け合って、労るのね。  
わかったわ。  
私も旦那様のお手伝いをするわ。  
病気の時はずっと労ってあげるわ。  
落ち込んだ時は励ましてあげるわ。  
何だかとても幸せな気持ちになった。  
彼女は旦那様のところへと走って行った。  
そして、旦那様の手を取って、  
いつもありがとう。  
わたしが怒っても、

優しく見守ってくれて、ありがとう。  
と旦那様に感謝を伝えました。

すると、旦那様は彼女の手を取り  
抱きしめ愛しているよと言った。

彼女はとても幸せそうでした。

パチパチ！と右手さんと左手さんが拍手をした。

ほう ほう ほう フクロウさん！

---

ほう ほう フクロウさん！  
我が家の前庭の大きな木には  
フクロウさんが住んでいます。

いつも夜になると  
決まった時間に  
ほう ほう ほう と鳴きます。

それを聴くと  
あ～今夜も、挨拶しているね  
と思ってホットします。

ねえ、フクロウさん！  
彼方はいつも、この時間に  
ほう ほう ほう と鳴いているけど  
何と言っているの？  
教えて？

すると ほう ほう ほう とだけ。

言えない訳でもあるの？  
ね～！

いや、別に。。

じゃ～教えてよ。ね～お願い。  
いつも私に ほう ほう ほう と言っているじゃない。

すると、フクロウさんがしゃべり出した。

貴女はどう聴こえているの  
僕の呼ぶ声を？

えー？呼んでいたの？  
ちっとも知らなかったわ。

何って、呼んでいるの？

君はどう思う？

私はフクロウさんが

ほう ほう ほう と鳴いていると  
夜の戸締まりは大丈夫？  
と思ってたよ。

うん、それもあるよ。

それから？

そうね。

小鳥さん達が動物に襲われ無いように  
フクロウさんが  
気を付けろよ  
と言っているよな気もするし。。

それとも、他の動物さん達に  
ここは僕が見張っているから  
来ても無駄だよ  
と教えているのかしらね？

まあ、いい解釈だね。

あら、そう？

だって、フクロウさんは必死になって  
ほう ほう ほう と言いつけているでしょう。  
疲れないのかなって思ってたよ。

そうかい？

君は優しいんだね。

こんなに僕の事を理解してくれる  
君が好きだなあ！

あら！まあ 好きだなんて  
照れちゃうな。



でも、うれしいわ！

ありがとう！

それから、次の夜も又。。

ほう ほう ほう

ご苦労さま！

ガムがポットン！

---

ガムがポットン！

私はよくガムを噛みます。

好きなんですか？

それでも無いよ。

じゃーどうして噛むの？

何だか、気分がいいからよ。

だから、よく噛むの

噛み終わったガムで遊ぶと

怒られます。

汚いって

別に、自分が噛んだから清潔よね。

今日も何時もの様に噛んでます。

そして、ゴミ箱へ

でも、今日はちょっとお行儀悪く、

立ったまま、ゴミ箱へ

すると、ポットンと

もの凄い音がした。

ガムがよく噛んだの？

と怒った。

え～？

ガムが話した！

よく噛んだよ。

と答えたが返事が無かった。

何だか、変な気持ちになった。

それから、ガムの事が気になり  
調べてみた。

色々教えてもらった。  
昔からマヤ族は木の幹を噛んでいた事や  
アフリカでは歯が白くなる木があり、噛んでいるそうだよ。

それから、

ガムを噛み続けているとアゴの動きでセラトニンがでて  
気分が落ち着くんだって。

すごいよね。。

だから、私、よく噛んでいたんだね。

あ！、そうっか。。

今、解ったよ。

ガムが怒った訳が。。

私が只のガムだと思ってたからだ。  
感謝をしてなかったからだよ。

ねえ、ガムさん！  
ごめんね。

やっと築いたね。  
とガムが笑って答えた。

いつも、ありがとう！  
紙に包まず捨てて

ごめんなさい。

これからも、よろしくね。ガムちゃん！

## 大金持ちだったの？

---

大金持ちだったの？

私の心の財産は  
遠い南の小さな島です。

そこには遊んだ海や野があります。  
生活は豊かではなかった。

でも、貧しいと思わなかった。

どうして？

島全体が同じ様な暮らしをしていたから  
お米も、野菜も自給自足だった。

だから、野菜ばかり食べてた。

もちろん、甘い物、スナックなど無かった。  
買えば有ったけど高額なため  
滅多に、買ってもらえ無かった。  
病気の際は別だけど。。

仕方が無いので自分でおやつをゲット。  
道端の野イチゴや  
野生のみかん、  
グアバー  
ヤマモモ  
などを遊びながら探して食べた。

家の回りには  
美味しいバナナ  
パパイヤ  
色んなミカン  
スモモ  
ビワ

サクランボなどの木があったね。

すごいね。

まだ、あったわ。

なに、何？

そう言えば、取り立ての落花生は茹でると美味しいんだ。

それから、サツマ芋

それも紫イモ、白いイモとあったわ。

特に紫イモは甘くて美味しいよね。

いまでは滅多に食べれないね。

色々思い出してみると

結構、あるね。

羨ましいわ。

誰が？

私が？

そうよ。あなたの話を最初から聴いていた  
都会育ちにはとても羨ましいわよ。

どして羨ましいの？

それは、都会では野生の果物とか  
食べれないよ。

それに、家は狭いし

庭なんて、、

田舎に比べれば話にならないよ。

あら？そうなの。。

そうよ。

大金持ちでもない限り無理よ。。

え～！大金持ちなの？

私が。。

なるほど。。

考えてみると

暮らしは貧しくとも

のどかな自然の中で暮らせてた。

自由に野原を走り待っていた事は。。

心の財産だね。

どんなに、お金を積んでも買えないね。

やっぱし、私は大金持ちだったんだ。。

何だか、うれしいわ。

今から、この有難い思い出を励みに生きてくわ。

小さい頃の田舎さん、ありがとう！

黄色いダンポポちゃん！

---

黄色いタンポポちゃん！

春です。

冬の間、眠っていた芝生が青々してきました。

そして、タンポポも芝生の中に

ご近所の方はタンポポに雑草剤のスプレーを。。

可哀想に。。

私はスプレーは嫌いです。

だって 空気を汚すしね。

シャベルでタンポポの根っこを

ほいっさっとね。

面白いよ。

やっていると、もっと取りたくなるよ。

緑の芝生に黄色のタンポポは

とても目立って解りやすいわ。

私のお目目ちゃんはね。

だからタンポポちゃん！ありがとうね。

もし、貴女が赤色だと解らないもの

だから ありがとう！

貴女を見つけ易いのよ。

でも、芝生の中に咲くと困るから

河原の方は好きな様に咲いていいわよ。

だから ごめんね。



今日も取ってしまったわ。

黄色いタンポポちゃん！

来年も咲いてね。

どうしたの？クロッカスさん！

---

どうしたの？クロッカスさん！

春一番に咲くのは貴女でしょう。

今年はどうしたのよ。

他の花は咲いているよ。

梅、桜も、木蓮の花も

つぼみを膨らませているわよ。

ねえ、どうしたのよ。

今年は確かに急に暖かくなったけど。。

次々に色んな花が咲いているのにね。

あ～もしかして

貴女を見過ごしたの？

そうなのね。

もし、そうだったら ごめんね。

いいのよ。

私は何時もの様に咲いていたわよ。

でも、他の花が大きく美しく咲いているから

人の目は

そっちの方に向いて行くもの。。

私の役目は

寒い冬がもう少しで終わりですよ

と言った頃に咲き出して

春が来ますよと教えるのが仕事だからね。

今年は何年だよ。

こんな時もあるわ。

私は平気よ。

色んな年が有って面白いわよ。

なるほどね。

いつも通りで無く、良いんだね。

皆と同じで無く、良いんだね。

それぞれ、違っていて、良いんだね。。

あ～安心した。。

少し、焦っていたんだ。

クロッカスさん、ありがとう！

スマレさん、み〜つけた！

---

スマレさん、み〜つけた！

誰も来ない、

我が家の裏の川原へ散歩です。

斜面を下りた時、足が止まった。

草むらに、

紫色の小さい、可愛い

スマレさんを見つけた。

こんにちは！スマレさん！

貴女はとっても美しいわ！

何て、美しいの、貴女は！ と声をかけました。

すると、こんにちは！

私が美しいって？ 知らなかったわ！

でも、とても嬉しいわ、ありがと！

ただ、普通に咲いているだけだよ。

普通って、自然にと言う事？

そうよ、土の下で暖かく成るのをじっと待って

土が春だよと言出したら、

ドアを押しかけて、

太陽さん、こんにちは！

と顔をだすのよ。

そして、土からの贈り物を頂いて

太陽からも頑張る力を一杯頂くと

うれしくなってね。

綺麗にお化粧をして

いつもありがとう！

とお礼がいたくなるの。

それが人間が言っている『花』なのよ。

だから、誰に見せる為でも無く、  
与えられた環境に感謝しているだけだよ。

なるほでね。

だから、貴女は素朴で  
清らかで、可愛い花なのね。

花屋さんで見る花は色も派手で、  
見栄えがするけど、違うわ、貴女とはね。

それに、早く買ってよ！  
と言っている様な気がするわ。

すると、  
スミレさんが少し悲しそうな顔をして  
それはね、花屋さんのお花さん達は  
それを作っている人が  
売れる、見立ての良い花を育てるの、  
少し、育ちが悪いものや  
形の変なものポイツと捨ててしまうのよ。

可哀想でしょう。

それに、お花屋さんも  
お客様に気に入られる花しか店におかないのよ。  
だから、お花達も必死にお化粧して  
派手な服を着て頑張っているよね。

なるほどね、それは私達人間にも言える事だわ。  
見かけだけ着飾っていても、  
見えない所におしゃれをするとか、  
人の前だけ良い子にしているとか。。  
そんなんじゃないのよね。

本当の美しさは人の見ていない所でも  
一生懸命に働き、  
人の陰口を言わない、自分の愚痴も言わない。。。  
そんな心優しい女性は  
自然に顔に優しいさが滲み出てくるよね。  
スミレさんみたいなね。

私も貴女に習って、素朴な美しい人生にするわ。

スミレさん、ありがとう！

まだ早いぞ！

---

まだ早いぞ！

暖かくなったから  
と男の子が外に出様かな  
と言った。

だめ！だめだよ。  
まだ、外には出ては危険だ。  
とおじいさんが言った。

どうして、  
暖かいのに出てはいけないの？  
外へ出て  
大きく背伸びして、  
体全体でお日様を浴びるんだよ。  
僕はずっと、それを待ってたんだ。

そうかい、俺も若い時はそうだったよ。

少し暖かい日が続くと、  
もう春になったと思い、  
外へ出たさ。  
そして、喜んで背伸びをして体を伸ばしたさ。

でも、急に凍り付く寒さになり、  
体の半分は凍死したんだ。

だから、一度や二度、暖かい日になっても  
じっと我慢さ。  
そうしないと、我達は完全に死んでしまうだ。

俺はこの100年ほど  
何度もこの失敗を繰り返して学んだのさ。

だから、若者よ！慌てるな。

必ず、お前の出る機会は来るさ。

それが『春』という素晴らしい時期だよ。

それまで、周りを観察して  
自分の出番にしっかり働ける様に  
体力を蓄えておけよ。

はい！ よく解りました。おじいさん！  
ありがとう。

この話を聴いていた人間の若者が  
うなずいていた。

そうか、僕は今、仕事が無いけど焦ってはいけないだな。  
その内に僕にあった仕事が必ずみつかるはずだね。  
それまで得意な事に徹底的に学んで  
そのエキスパートになるぞ。  
何だか希望が沸いてきた。  
寒い冬に耐えている木の芽さん達！  
良い事を築かせてくれてありがとう！  
僕も頑張る！



## 楽に成る方法

---

### 楽になる方法

私は時々自分をどこかへ逃がしてあげます。

どうやって？

それは簡単さ！

体はそのまま

心だけいなくするのよ。

ずっと前に旦那様に対して

不満が有ったの

余にも理不尽な人だったので

困ってたの。

大変だったね。

自分かその人の妻だと思うと

腹がたちました。

その時に妻という立場を取れ去り、

妻というプライドを取れ去りました。

すると、楽になったの

自分という大きな物が

そこにあると

自分が可哀想だと思ったり

不幸だと思うのよ。

こんな技を身に付けると

色んな場面で平静を保てますよ。

辛い事が沢山あっても平気ですよ。

この技さえ忘れ無ければ

大丈夫ですよ。

内相ですが

そうすると、年を取らないの

顔も幸せな風格が出て

しわも出来にくいよ。。

え～！本当に。。

良い事を聴いちゃった！

私もそうして見るね。

ありがとう！

背骨さんは偉い！

---

背骨さんは偉い！

私の背骨さん！

何時もお世話を成ってます。

喜びの時は胸を張り

苦しい時は前に折れ

自慢の時は後ろに反り変ええて

何時も忙しい背骨さん！

お疲れ様です。

私は幸せな生活をアメリカで過してました。

ある日、

苦しみ 悩み事が襲って来ました。

その時に、

人生は楽しい事が半部

苦しみが半分と思いました。

そして、

自分の体の前は喜びとして

又、苦しみは体の後ろに背負っている

と思いました。

その真ん中にある背骨さんが

上手に調整をしいるから

人間は真っ直ぐに立ってられるだよね。

だから、有難い存在だよね。

彼方は偉いわよ。。

そこまで、褒めてもらおうと

頑張り甲斐が有るよ。

もし、彼方が弱く直ぐに折れたりしたら  
困るものね。

だから、背骨さん！  
何時もありがとう。

つい、辛いと前屈みに成り  
貴方は背中を痛めたわね。

その痛みで私は気付き  
体を後ろに反らして深呼吸をしたわ。  
すると、悩みが薄らいだもの。

こんな有難い背骨さん  
いつも助けてくれて、ありがとう。。

もし問題が無く、  
苦しみ、悲しみが無くても  
体を後ろに反らさないで  
謙虚に美しく振る舞うわね。

また、態度が悪い時は早く痛みで  
教えてね。

お願いします。

引力さん、ありがとう！

---

引力さん、ありがとう！

引力さん あなたのお陰ですよ。

私は大変に助かったのよ。

へ～そうなの？

そうよ。

彼方が居るから、音が出るでしょう。

私のお目目ちゃんは余り見えないのね。。

だから、水を入れる時も水の落ちる音がすれば  
その下にコップを置けば注げるのよ。

食べる時にもホークや色んな物を落としても  
音がすれば気が付くよね。

そしたら、手で触って拾えるわよ。

だから、いつも音が出る事が有難いのよ。

その時、彼方のお陰だとね。

なるほどね。

それは築かなかったな。

我は只、地球の芯の方に引っ張られているだけと  
思ってたよ。

僕が君の為に役にたっているなら嬉しいな。

大抵の女性は

ほっぺたが下がって来たのは

僕のせいだと言っているよね。

まあ、気にしないで。。  
実は私も最近までそう思ってたの  
ごめんね。引力さん！

どんどん引っ張ってよ。

彼方を頼りにしているわ。

そこまで言われたら  
もっと、頑張るか。。君の為にね。

そうよ。宜しくね！

桃の木さん！

---

桃の木さん！

裏庭に植えた桃の木さんは  
種から育てました。

余り陽の当たらない大きな木の側にいます。

少しずつ大きく成り、もう実を付けれるほど育った時に  
事故に有ったのです。

あら、まあ！  
どんな？

トラクターが草刈りをした時に  
敷いてしまったのです。

可愛そうにね。

そうよ。  
とてもショックよ。

でも、根っこは残っていたので  
沢山、腐葉土をかぶせて、お水を飲ませました。

頑張っってね。桃の木さん！  
と毎日のように声を掛け続けました。

それから、何年か経ったある日の事です。

ゴミ出しの為に外へ出た後に  
何となく、裏庭の方へ向かいました。

そして、桃の木さんを見ると

なんと！。。

沢山、実が付いているじゃないの。

枝が折れそうな位に。。

まじまじと、細い枝に付いている実を眺めました。

よく、頑張ったね。

桃の木さん！

ええ！貴女のお陰よ。

私が諦めずに頑張れたのは。。

あら、そうなの？

そうよ。

貴女が毎日の様に世話して

心まで癒してくれたからよ。

だから、貴女の優しさの為に

早く、傷を直そうと思ったのよ。。

だから、貴女は私の恩人よ。

それで、早く貴女に実をみせたくて

呼んだの。

そうだったの

桃の木さんが元気になってくれたら

嬉しいわよ。

こちらこそ、ありがとうね。

私も桃の木さんみたいに諦めずに

頑張っていくわね。

来年も沢山、実を付けてね。

頑張ろうね！





リスさんにあげるね。

---

リスさんにあげるね。

桃の実が沢山なっています。

今年は食べれるわ。  
と楽しみにしていました。

しかし、毎日の様に少しずつ減っています。

どうしたのかした？

誰か、食べているのかしら？  
と側を見渡すと。。

リス君がゴリゴリと食べていました。

そっか、食べる物が無いものね。  
仕方ないわ。  
自然に有る物を取って食べるしかね。。

私達はお店に行けば  
いつでも、好きな食材は買えるしね。  
また、直ぐ食べれる物も  
売っているしね。  
便利過ぎるよね。

それに比べれば野生のリス君は  
大変よ。

だから、食べて良いよ。全部ね。

本当に、いいの？

いいわよ。縁量しなくてもね。

うん、ありがとう！

それから、リス君は毎日ように  
好きなだけ食べていた。

しかし、1個だけ残してあります。

あら、要らないの？。。

それだけは、優しい貴女の為に  
残したよ。

まあ、義理堅いのね、リス君！

こんな話を聞いた事があるよ。

ある国の人にはね、トウモノコシを植える時に  
森の神様に  
荒れ地では育たないから  
焼き畑にしていいのか聴くそうです。

許可を頂いてから草木を焼き育てるそうです。

そして、どんなに収穫が少なくとも  
小鳥達の為に必ず残すそうです。

それに似ているね。

この地球上の物は人間だけの物じゃないものね。  
みんなで分け与えなくちゃね。。  
どんな事でも独り占めは神様も許してくれないよね。

僕もそう思うよ。

リス君、もっと果物の木を植えるわね。  
そうしたら、お友達にも分けてあげれるよ。

それ良いなあ、皆喜ぶよ。

よっしゃ～待っててね。

コーロギさんはなぜ鳴くの？

---

コーロギさんはなぜ鳴くの？

ギーギーと鳴いています。

ね～コオロギ君！

どうして君は夜に鳴くの？

それはね夜に窓を開けている人を癒すためだよ。

え～そうなんだ。

知らなかったけど

どうしてなの？

だって、エアコンを使っている家の側は  
暑いだろう。

だから、使っていない家を探すんだよ。。

涼しい風が吹いて来るから  
つい、嬉しくってギーギーと  
声を出すんだよ。

世間の人には、僕たちが勝手に鳴いている  
と思っているけど  
大きな間違いだよ。

あ～そうなんだ。

ちっとも知らなかったわ。  
私は節約の為に使わなかっただけ。。  
他に大事な事があるかもね。

もちろんだよ。

人願がエネルギーを使いすぎると

この地球は温暖化が進んで  
寒い日ばかりになるだよ。。

それは困るわ。  
私、南国育ちだから寒いのは嫌だわ。。

僕達もだよ。

そうだね。

小さなコーロギー君達は  
もっと困るわね。

じゃ～どうすればいいんだろう？

僕が思うには

皆が同じ気持ちになって  
この地球の健康を考えればいいんだよ。

例えばどんな事？

出来るだけ車を使わず歩くとか  
電気に頼り過ぎない

無駄な物を作り過ぎない  
物を大切にリサイクルするとか。。

一人一人が少しずつやれば  
世界中の人がやれば  
大きなエネルギーの節約になるよ。

なるほど。。  
私のちっぽけな節約でいいのね。

そう、そう。

『ちりも積もれば山となる』と言うじゃないか。。

あれね。解ったわ。

私、お友達にも進めてみるね。

頼んだよ。

それから、あっちの家、こっちの家の  
窓の側でギーギーと鳴いていた。

よかったね。

慣れって不思議ね。

---

慣れって不思議ね。

過酷な寒さも続けば  
親しみを感じ  
慣れるものですね。

でも これはこの冬の後  
暖かい春が来る事を知っているからよね。

これも人生と同じね。

苦しみのは必ず喜びが来るのよね

だから今、辛い事があっても大丈夫だよ。

いつまでも、苦しさは続かないもの

だって、苦しみだって疲れてしまうもの

だから喜びに変えてくれるのよ。  
頑張っていればね。。

さって、寒い冬さん。。  
そろそろ、御暇ですか？

そうだね、  
僕も春休み取るよ。

やった！春の番ね。

ようこそ、我が家の庭へ 春ちゃん！



ユリが香ったよ。

---

ユリが香ったよ。

私はユリの花が大好きです。

どれぐらい。。

それは、夢に出てくるほどよ。

野原を走り回って摘んでいた。

それも何度もだよ。

実際に、子供の頃はそうやって  
遊んでいたもの。。

だから、大好きよ。

それを、和紙で作る事にしたの。

初めは難しくて。。

考えちゃったけど

諦めずに

小さい時の事を思い出していたら

どんどん作り出せたの。。

不思議だったわ。

早く仕上げて見たくてね。。

長い時間、作ってたよ。

そして、最後の行程は

花と萼、そして葉っぱさん達を

丁寧に、丁寧に1本に仕上げたの

嬉しくって、たまらず

ふっと、香りをかいたの。。

そしたら、本物のユリの香りがしたの。。

嘘でしょう？

嘘じゃないの

たった、1秒だけどね。。

確かに香ったわ

その時に鳥肌がたったもの

後で落ち着いて考えてみたよ。

するとね

そのユリの事を強く思って

懐かしく、丁寧に作っていると

その時のユリのエンゼルが

やってくるんだって。

だから香ったのよ。

面白いよね。

う～ん、解る気がするわ。

その後、どんどん作ったわ。

他のユリも香った？

もちろん、香らなかったよ。

こんな、素敵な出来事は

一度だけで十分よ。

ねえ～ユリさん！

ありがとう！

チックとさよなら！

---

チックとさよなら！

目が時々チックと痛みます。

ねえ～お目目ちゃん！

また、さよならするの？

ええ

そうなのね。

でも、いいわ。

少し、残念だけど。。

黙ってさよならするより増だわ

目のお医者さんにその事を言ったら

そんな事は無いと

詰らない返事をしたわよ。

ねえ、お目目ちゃん！

貴女の細胞さんは少しずつ死んでいるんだよね。

ええ、とても悲しい現実です。

細胞さん達には頑張ってもらいたい

と祈っているよ。

大丈夫よ。

持ち主の私が平気なもの

いつかは消えつつある細胞さん達を

蘇らせる技術が出来ればよ。

だから、楽しく待ちましょうよ。

余り心配すると  
マイナスの力が働くから損よ。

希望を持つと  
プラスの力が働くから特よね。

それは良い事ね。

頼もしい持ち主さんで安心したわ  
ありがとう。

まあ、お目目ちゃんにお礼をいわれるなんて。。

私って、なんて幸せ者でしょう。。

私の愛するお目目ちゃん、ありがとう！

## 芽が出れば

---

芽が出れば

真冬の寒さの中に  
裸の細い枝が揺れてます。

いかにも、弱々しいです。

腐葉土を被せながら

細い枝さん、頑張っ  
と声を掛けると。

ありがとう！僕、頑張るよ。

それから、毎日の様に窓から庭を眺めていました。

その内に寒さも薄らいだ頃に  
よく見ると、細い枝に小さい芽が出ています。

あ～よかった。冬に耐えたのね。  
嬉しくなり、見るのが楽しくなりました。

枝さん、よく頑張ったね。

それは、君のお陰さ。

どうして？

だって、いつも窓から僕の事をみていたでしょう。

そうよ。

それに励まされたんだよ。

そうなの。

私は暖かい部屋の中から  
寒さに耐えている枝さんが可哀想でね。  
頑張ると祈ってたの。。

だからだよ。僕が力がついたらもん。  
ありがとう。

芽は、日に日に大きく膨らみ

やがて、大きく広げた葉っぱさんになりました。

今まで、弱々しいそうに見えていたのが  
立派な木としての風格を表しました。

感心をしながら眺めていると

あ〜そっか。。。  
世間で『あの人に芽が出るといいのだかなあ』  
と良く耳にしますね。

なるほどね。。と思いました。  
頑張っているうちに  
何かに取り組み出した時に  
やる気が芽生える事ね。。

だから、芽が出ればと言うんだね。。

漸く築いたわ。。

昔の人も草木を見て言ったのかな。。

芽さん、ありがとう！

それって、神様の願い

---

それって、神様の願い

凍り付く寒い朝に  
暖房と女性の会話です。

道路のジャリジャリという音で  
女性は目が覚めました。

家の中は暖房がう～う～と唸っています。

ねえ、暖房さん！  
何で、唸っているの？

僕、唸っている？

だって、いやだ、いやだと聴こえるよ。

そうか、僕は赤鬼さんと同じだね。。

どうして、赤鬼さんが出て来るの？

だって、本当は赤鬼さん達は優しいんだよ。  
神様に頼まれて、罰を与える為に  
泣き泣き叩いているんだってさあ。。。

へ～え、それは知らなかったわ。

僕だって、いやいや動いてるのさ。

だって、寒ければ服を重ねたりすれば良いのに。。  
部屋は夏みたいだよ。  
君も半袖だよ。  
多少は暖めてもいいけどね。  
必要以外は勿体無いな。。  
だから、いやだ、いやだと唸って聴こえるんだよ。



あ、そっか！。。  
そうね。私もつい暖房を付け過ぎていたわ。  
反省するね。

掃除、料理、洗濯と体を動かし続けていれば  
体は暖かくなるし  
そしたら、光熱費は減るし  
スリムになるし、気分は最高ね。  
実行してみるわ。

君、素晴らしいよ。  
ところで、何でこんな話になったけ？

あ～そうね。  
でもさ、無駄使いはいけないよね。  
この地球の為にもね。

僕もそう思うよ。  
地球が元気で息していないと皆が困るよな。。

暖炉に使う木だって  
使い過ぎると森が困って  
大雨の時に洪水を起して  
その水が直ぐ海に流れるとプランクトンが死んでしまうよな。

そうすると、海に住む魚さん達が減ってくるな。

それは困るわ。  
私、魚は大好きだから。

この地球が元気に息をしていないと  
この地球に住んでいる人、動物、植物  
あらゆるものが困ってしまうものね。  
それを考えないと滅びていくよね。

その通りだ。

良いところに気が付いたぞ。  
森が元気だと海も元気だって。。  
良く耳にするさ。

ね、ね、暖房さん！  
もしかして、神様の願って  
こんな事かもしれないね。。  
だから、道路を凍らせて  
ジャリジャリと叩いて、訴えていたんだよ。。

僕もそう思うよ。

全てが有難い事なんだね。